

新入学児童への 交通安全教材贈呈式と交通安全教室

(一社)日本自動車販売協会連合会三重県支部・三重県軽自動車協会
(一社)三重県自動車会議所・(一財)三重県交通安全協会

上記4団体は令和7年3月6日(木)交通安全研修センターにおいて、子どもの交通事故防止に役立ててもらおうと県内の新入学児童、約13,450人に配布する「こうつうあんぜんワークブック」の贈呈式を行いました。

ワークブックは県内各地区交通安全協会の役員が各学校を訪問して、または各市町の教育委員会を通じて県内のこどもたちに贈られます。

贈呈式後に実施した交通安全教室では、学校法人松ヶ谷学園ふたば幼稚園の園児32名は、研修センター歩行コースにおいて、信号交差点における横断歩道の渡り方や、見通しの悪い交差道路の歩き方などを学びました。

運転中のながらスマホも危険ですが、『歩きスマホ』もとても危険です!!

- 画面に注意が集中して視野が狭くなることで、周囲の状況や危険に気づくことが遅れてしまいます。
- 人にぶつかったり、車両等にはねられたりすることで、けがや損害賠償につながる恐れがあります。



事故を防ぐには、スマートフォン等を使用するときは、周囲を確認し、通行の妨げにならない安全な場所で立ち止まって使用することを心がけるようにしましょう。

出かける前に交通情報を 知りたいと思ったことはありませんか?

そんなときに役立つのが「#8011」です!



国道23号線は渋滞していますか?事故による通行規制などはありますか?

今の国道23号線の状況は、渋滞もなく、事故等による通行規制もありません。



最寄りの公益財団法人日本道路交通情報センターに繋がり、知りたい路線の渋滞状況や事故等による通行規制などを質問することができます。

出かけ前に交通情報を知ることも
事故防止に繋がります。

運転に“慣れてきた”から要注意! 若年ドライバーによる交通事故の傾向

そろそろ運転に慣ってきたかなというが、一番事故が多いタイミングです!運転に慣れてきたときこそ、より安全を意識することが必要です。

経験の少ない若年ドライバーは、運転の際に伴う危険性に気付かず、安全のための注意力が足りていなかったり、周囲の状況が自車に及ぼす影響への理解度や状況判断力が低いという特徴があります。

下記は若年ドライバーに多くみられる事故原因であり、いずれも「安全運転義務違反」によって起こる事故です。

「安全不確認」

一時停止や減速をしたにもかかわらず、十分な安全確認をしなかつたため事故につながった



「動静不注視」

事故を起しそうな相手に気付いていながら危険性を軽視して、相手の動きに注意しなかった



「脇見運転」

前方から視線を外して運転する



「漫然運転」

ぼんやりとした状態や他に考え事をしている状態で運転



事故を防ぐためにも経験を重ねながら、理解度や状況判断力・対処能力を向上させていくことが大切です。

そして、「安全運転義務違反」が多いのは若年ドライバーだけではなく、全ての年齢層にみられる特徴です。初心者はもちろん、運転経験の長いベテランドライバーも過信することなく、日頃から安全運転を心がけるようにしましょう。

花粉の季節、運転時に考えられるトラブルとは?



●目の異常

かゆくなったり涙目になったりするなど、さまざま異常が起きます。こうした症状で怖いのが、「視野の確保が十分にできなくなること」です。

歩行者の飛び出しに対する反応が遅れるだけでなく、信号や一時停止の標識を見逃してしまい、事故に巻き込まれるリスクは高くなってしまいます。



●くしゃみ・せき

くしゃみやせきといった症状が出る人も多いでしょう。その中でも、瞬間に目をつぶり身体を揺らすくしゃみは、運転中はとくに避けたいところ。周囲への注意力がおろそかになるだけでなく、はずみでハンドルを誤操作してしまう恐れがあります。



●眠気

花粉症の薬を飲んでいる場合は猛烈な眠気に襲われるリスクがあります。

花粉症の薬の中には眠気を起こしにくいものもあるので、日常的に車を運転する人は薬を選ぶ際にしっかりと確認しましょう。



◇運転中に花粉症の症状を抑えるには、花粉を車内に入れないことが大切。
車に乗る前には、必ず衣服を払うようにしましょう。

◇効果的なのはエアコンの換気を「内気循環モード」にすることです。
外気をシャットアウトすれば、花粉の侵入を防げます。